

## 国際熱帯木材機関（ITTO）設立25周年式典

開会式 加藤政務官ごあいさつ（案）

（時間：3～5分）

ゼメカITTO事務局長、林横浜市市長、御列席の皆様、

本日は、日本政府を代表いたしまして、ITTO設立25周年を心よりお祝いいたします。

今から25年前、美しい港を臨む横浜に誕生したITTOは、現在では、世界を代表する熱帯林ネットワークとなり、熱帯林の持続可能な経営の推進に向けて取組み、横浜から世界に情報を発信し続けています。25年という節目を迎え、ますますITTOの果たす役割が増していることは、事務局長をはじめとする、ITTOスタッフの皆様、それを長年にわたり支えている横浜市民の皆様のご尽力の結果だと確信しております。

日本政府としても、熱帯林の保全と持続可能な森林経営に貢献してまいりました。その最も重要な取組の一つとして横浜市と一体となって、ITTOが実施する活動やプロジェクトを支援しています。熱帯林保全に対する意識向上や管理能力の強化、地域を主体とした植林の促進といったプロジェクトを支援するほか、熱帯林の保全を担う人材育成を目的とした、奨学金の一部も負担しています。

熱帯林の保全、持続可能な森林経営を達成するため、ITTOが創意工夫のもと計画・実施したプロジェクトは、この25年間で800件以上に上っています。その一つ一つが熱帯林の保全につながっていることは、多くのプロジェクトを支援しているドナー国の一つである日本にとっても、非常に意味のあることだと感じています。

近年、熱帯林保全は、気候変動問題と生物多様性保全にも密接に関わっていることから、大きな注目を浴びています。日本政府では、昨年からは、生物多様性に関連したプロジェクトの支援を始め、既に、タイ及びカンボジアにまたがるメコン森林保護地域で、トラなどの

生息地域に配慮した森林管理計画の改善、地域住民の収入源獲得のためのプロジェクトに取り組んでいます。

また、今年度は、アフリカにおける持続可能な熱帯林経営と生物多様性保全のための能力強化を目的としたODA環境・気候変動対策無償を日本政府とITTOが協力して実施することを計画しております。本28日の閣議において、カメルーン、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国、中央アフリカで、同事業を実施することが決定された(される予定)ことをこの場をお借りして皆様にお知らせします。

来年6月、ブラジル・リオデジャネイロにおいて、国連持続可能な開発会議、いわゆるリオ+20が開催されます。熱帯林の持続可能な経営を促進し、合法的に伐採された熱帯木材の国際貿易の拡大及び多様化を目的とし、持続可能な開発及び貧困の軽減に寄与するという、ITTOの理念は、リオ+20においてまさに世界が議論をしようとしているテーマの一つです。これらの機会を十分に生かし、これまで以上に飛躍されるITTOを日本政府としても、積極的に支援していきたいと考えております。

御清聴ありがとうございました。

(了)